すみれ・ひまわり組
遊びの様子

令和6年10月15日(火)

＊記録の視点＊幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿

☑健康な心と体　☑自立心　☑協同性　☑道徳性・規範意識の芽生え
☑社会生活との関わり　☑思考力の芽生え　□自然との関わり・生命尊重
☑数量や図形、標識や文字などへ関心・感覚　☑言葉による伝え合い　☑豊かな感性と表現

もも組の遊びの様子は後日発行します！

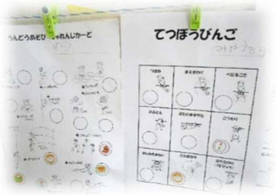
すみれ組　しっぽとり

①「フリフリしっぽとり」の歌に合わせて２人１組でしっぽとり♪

②まずは担任が鬼になって、しっぽとりをしました。担任も一緒に楽しむことで子どもたちも本気で走り、遊びがさらに盛り上がります。

③次は子どもたちが鬼をすることに。鬼になるか、逃げるかは子どもたちが決め、担任はその意志を尊重します。必要に応じて、子どもたちと一緒にルールを考えながら、主体的に遊べるように関わっています。

ひまわり組　チャレンジカード



担任が「運動遊びチャレンジカード」「鉄棒ビンゴ」を作り、できたらシールやスタンプのご褒美がもらえます。イラストを載せておくことで、自主的に挑戦できるように工夫しています。

友達のチャレンジ成功を、自分のことのように喜んでいました。お互いの頑張りを認め合える関係、とっても素敵ですね。

カードにいろんな運動遊びの目標を示しておくことで「鉄棒は苦手だけど、フラフーブならできそうかな…」といったように、やってみたいと思えるような環境構成をしています。また、目標を視覚化することで、できるようになるまでじっくり取り組もうとする意欲がもてるように関わっています。

ひまわり組　ドッジボール

①毎日ドッジボールで遊んでいて、ルールがわかってきたことや、チーム対抗という意識が出てきたので、対戦前に作戦会議をしてみることになりました。

②話し合いを終えて対戦開始。赤チームは“ボールを投げるフリをして惑わす”という作戦をたてたようです。その作戦のおかげか、見事赤チームが勝ちましたが、なぜかＲくんはひとり浮かない顔をしていました。

③担任がＲくんに理由を聞くと、「作戦を守らない子がいた」と話してくれました。「うまく伝わっていなかったのかな？」、「〇〇ちゃんはどんな作戦だと思っていたのかな？」とみんなで考える機会にしました。“勝って嬉しい”、“みんなで遊ぶと楽しい”だけで終わらないのが年長児。遊びの中で思いをぶつけ合い、他者の気持ちに気づくことも必要な経験です。

すみれ組　お祭りごっこ

①好きな遊びの時間にお面を作って遊んでいた子どもたち。ある子が、「お祭りでお面売ってた」と発言すると、「チョコバナナもあったよ」、「焼きそばを焼くときはヘラを使ってたよ」など、“お祭り”に行ったときの経験を話し、そこからお祭りの商品の制作が始まりました。

②担任は、一人ひとりの作りたい物に合わせて活用できそうな材料を準備し、一緒に形にしていきます。制作が進んでいろんな商品が出来上がってくると、今度は「ひまわり組さんにあげたい！」と、他のクラスを招いてお祭りごっこをしたいという思いが生まれました。どんどん遊びが広がっている様子が伺えます。お祭りが開催されたら、またこの掲示でお知らせしたいと思います。